

UVSOR シンポジウム 2019 利用者懇談会総会 議事録

日時： 2019年11月17日 (日) 11:10 - 12:10

場所： 岡崎コンファレンスセンター小会議室

参加者： UVSOR シンポジウム 2019 参加者

司会： 懇談会会長 木村真一、事務局 岡林潤

・ポスター賞受賞者 3名を表彰した。

東北大学 中田優樹氏 原子層 NbSe₂ の高分解能 ARPES

山形大学 八木橋亨氏 Ce:Gd₃(Ga,Al)₅O₁₂混晶における浅い電子捕獲中心

東京工業大学 日下翔太郎氏 Bi₁Te₁ 薄膜の作製とその表面電子状態

・UVSOR でなければできないことは何か、について検討した。

BL7B の復旧状況について、施設側から中村永研さんから説明があった。水漏れがあり、M0 ミラーの冷却ができておらず、数時間のタイムスケールでエネルギーシフトが起こる。現在、様子を見ながら利用することになっている。このことを理解した上での利用をお願いするとのこと。反射・吸収・発光分光は BL3B でも代用できるが、大きな装置を持ち込んでの実験は難しい。シングルバンチでの利用の要望があるため、BL3B だけだと利用時間の確保が難しくなるという問題があり、BL7B だけではなく、BL2A と BL5B の利用も開始した。VUV だけではなく可視から赤外までアクセスできる国際的に見ても貴重なビームラインなので、ユーザー側の利用要望（デマンド）を挙げてもらいたい。

R&D をしながら放射光測定をできることが UVSOR の強みである。

光源からデザインした実験が行える点もよいところである。

・ビームの安定性について議論した。

火曜日午前中は安定していないことがあり、熱安定性と関連している。木曜日からの連続運転となる金曜日には安定している。連続運転の可能性は今後あるかどうか、議論があった。特段の強い要望はなかった。現状では、24 時間の連続運転は施設側のマンパワー不足により不可能であり、今後の課題である。

24 時間体制は難しいと思うが、システムの自動化などによる無人化を進める方向で考えてほしいとの要望があった。

・UVSOR シンポジウムの形式について意見があった。

今回は、STXM に関する特別セッションを設けた。これは意義があったとの意見があった。

施設の現状について、最初に説明が欲しかったとのことだったが、今回のみ 2 日目午後に将来計画の講演会が企画されていたためであり、次年度以降は最初に説明される。シンポジウムの最初の 1 時間程度を施設報告に使ってもよいのではないかという意見があった。特別セッションを設けることで、一般口頭講演数が減ってしまうため、2 日目午後も行っただ方がよいかどうか議論し、夕方くらいまで行うことも実行委員で検討することとした。日程について、土日が良いか、金土がよいか、実行委員に一任された。

・ユーザーと施設側の意見交換

ユーザー控室は今年度改修工事がおこなわれる。改修後は、分子研全体のユーザー控室となる。

ヘリウム供給具合はどうか。-> 現状では今まで通りに供給できる

自転車を利用できないか -> 岡崎市がアシスト付レンタル自転車を用意し、東岡崎駅前、明大寺ロッジ近くに有料で設置している。

BL5U のスピン分解光電子分光の進捗状況については、午後の公開討論会で報告される予定である。

利用者懇談会委員選出の選挙を年度内に行う。これまでの紙の投票を変えて、電子投票の準備を進めている。

ポケット線量計の不具合が多いという意見に対して、施設側からは以下の返答があった。

(1) 施設側でユーザーの放射線管理を行う必要があり、これは他施設でも同様である。

UVSOR ではユーザーが目に見える形でということでポケット線量計を採用している。動作不具合については改善策を検討する。(2) ポケット線量計は電磁波を計測しており、入退室カードリーダー、自動ドア、携帯電話の電波などを拾ってしまう。悪路走行中の自動車の振動も拾ってしまう事例もある。そのようなものに近づけない、所外に持ち出さないことに気をつけていただきたい。(3) 破損させてしまった場合は黙っておらず、届け出をしていただきたい。

(文責 岡林)